

2018/8/18(土) ▶ 20(日)

第22回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知豊川大会

戦争遺跡の保存活用と次世代への継承



今年の戦争遺跡保存全国シンポジウムは愛知県豊川市で開催されます。

豊川の河岸段丘上に広がる本野ヶ原は、かつては雑木林が生い茂る土地でした。平和な村々の生活が一変したのは、海軍工廠の建設により、軍需産業都市として生まれ変わり、電気・ガス・上下水道、道路・鉄道と次々とインフラ整備が進められ、一大軍事都市へと変貌するのです。隣接する豊橋市も陸軍第15師団の誘致を機に東三河地方の中核都市へと発展する基盤整備が行われます。

こうした歴史背景を持つ東三河地方には、今日なお当時を物語る戦争遺跡が多数存在します。しかし、戦後73年を経て戦争体験者は全国民の8%となり、戦争の風化は進んでいます。戦争の遺跡や資料を通して戦争の実相を正しく21世紀の次世代に継承することがますます重要になっています。戦争の記憶がヒトからモノへ移り変わらざるを得ない今、残存する戦争遺跡の活用の必要性は高まるばかりです。

豊川市では今年6月9日豊川市豊川海軍工廠平和公園が開園します。わずかに残る貴重な戦争の記録としての戦争遺跡を有効に活用する基盤の1つができるのです。

第22回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知豊川大会が、戦争遺跡の保存の現状や課題を明らかにし、相互交流を深めさらに発展させることができるよう皆様の参加を願っています。

主催 / 第22回戦争遺跡保存全国シンポジウム愛知豊川大会実行委員会・戦争遺跡保存全国ネットワーク
後援 / 豊川市 豊川市教育委員会 中日新聞社 読売新聞中部支社 朝日新聞社 東海日日新聞社 東愛知新聞社
エフエム豊橋 豊橋ケーブルネットワーク(株)ティーズ

